

## 論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Does overweight before pregnancy reduce the occurrence of gastroschisis?: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 妊娠前過体重群では腹壁破裂の発生が少ないか？

ユニットセンター(UC)等名: コアセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: BMC Research Notes

年: 2020 月: 1 巻: 13 頁: 47

筆頭著者名: 道川武紘

所属UC名: コアセンター

目的: 妊娠前過体重は先天性形態異常の危険因子と言われていますが、腹壁破裂については過体重のお母さんから発生が少ないようです。しかしこれまでの報告は主に欧米からで体格の異なるアジア人での報告は少なかったため、エコチル調査データで腹壁破裂症例における妊娠前肥満度(BMI)の分布に注目した集計を行いました。

方法: 単胎生産児を出産した92,796名のお母さんのデータを集計しました。診療録から転記された身長と妊娠前体重からBMIを算出し、18.5 kg/m<sup>2</sup>未満(やせ傾向)、18.5-24.9 kg/m<sup>2</sup>(基準)、25.0 kg/m<sup>2</sup>以上(過体重)の3群に分けました。生後1か月までの診療録を確認し腹壁破裂の有無について情報収集しました。

結果: 妊娠前BMIはやせ傾向群16.2%、基準群73.1%、過体重群10.6%、過体重の中でもBMI30 kg/m<sup>2</sup>以上は2.5%という分布でした。この集団の中で腹壁破裂は9症例、1.0/10,000人の発生頻度であり、やせ傾向群から2例(0.01%)、基準群から5例(0.01%)、過体重群から2例(0.02%)発生していました。基準群に対して過体重群では腹壁破裂の発生が多い傾向にありました。

考察:(研究の限界を含める) 今回の腹壁破裂発生頻度は1.0/10,000人とこれまでの報告に矛盾しないものでしたが、9症例しかありませんでしたので統計学的手法を用いた検討はできませんでした。しかしながらアジアにおける研究の必要性を示す仮説「欧米人とはBMIの分布が違う(低い方に分布している)アジア人においては、欧米でのこれまでの研究結果「妊娠前BMIが増えると腹壁破裂が減る」が当てはらない」を提案できたと考えています。

結論: このエコチル調査集団では、妊娠前過体重のお母さんで腹壁破裂の発生が少ないとは言えないようでした。今後、アジア人を対象として腹壁破裂の危険因子を探索する研究を進めていくことが望まれます。